令和6年3月 第1回佐々町議会定例会 会議録（4日目）

1. 招集年月日 令和6年3月5日（火曜日） 午前10時00分

2. 場 所 佐々町役場 3階 議場

3. 開 議 令和6年3月15日（金曜日） 午前10時00分

4. 出席議員（10名）

議席番号	氏 名	議席番号	氏 名	議席番号	氏 名
1	平田康範君	2	川副剛君	3	横田博茂君
4	永田勝美君	5	長谷川忠君	6	阿部豊君
7	永安文男君	8	橋本義雄君	9	須藤敏規君
10	淡田邦夫君				

5. 欠席議員（なし）

6. 法第121条による説明のための出席者職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
町 長	古庄剛君	副 町 長	中村義治君	教 育 長	黒川雅孝君
総 務 理 事	大平弘明君	事 業 理 事	今道晋次君	総 務 課 長	落合健治君
庁舎建設室長	山本勝憲君	税 財 政 課 長	藤永大治君	住民福祉課長	松本典子君
保険環境課長	宮原良之君	多世代包括支援センター長	松尾直美君	企画商工課長	中道隆介君
建 設 課 長	山村輝明君	農林水産課長兼農業委員会事務局長	作永善則君	水 道 課 長	安達伸男君
会 計 管 理 者	藤永尊生君	教 育 次 長	井手守道君		

7. 職務のための出席者職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
議 会 事 務 局 長	荒木洋介君	議 会 事 務 局 書 記	山下慶君

8. 本日の会議に付した案件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 議案第30号 令和6年度 佐々町一般会計予算
- 日程第3 議案第31号 令和6年度 佐々町国民健康保険特別会計予算
- 日程第4 議案第32号 令和6年度 佐々町介護保険特別会計予算
- 日程第5 議案第33号 令和6年度 佐々町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第6 議案第34号 令和6年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計予算

- 日程第7 議案第35号 令和6年度 佐々町水道事業会計予算
日程第8 議案第36号 令和6年度 佐々町公共下水道事業会計予算
日程第9 請願第2号 健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書
日程第10 閉会中の委員会継続調査

9. 審議の経過

(10時00分 開議)

— 開議 —

議 長（淡田 邦夫 君）

おはようございます。

本日は、令和6年3月第1回佐々町議会定例会本会議の4日目です。

本日の出席議員は全員出席です。

これから本日の会議を開きます。

— 日程第1 会議録署名議員の指名 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則の規定により、2番、川副剛君、3番、横田博茂君を指名します。

それでは、次の日程に入る前に、議員の皆様にお知らせをいたします。

まず、歳出のほうから行いますが、ページを分けて質疑をしたいと思います。

歳出の42ページ議会費から75ページ監査委員費まで、次に、75ページの民生費から109ページの診療所費まで、次に、110ページ労働費から141ページの消防費まで、次に、141ページ教育費から186ページの予備費まで、最後に、歳入歳出全般の総括の質疑を行います。

以上、お知らせしましたとおり、質疑を行いたいと思います。

それでは、3月7日に引き続き、議案の上程を行います。

質疑、討論、採決の順で進めていきます。

— 日程第2 議案第30号 令和6年度 佐々町一般会計予算 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第2、議案第30号 令和6年度佐々町一般会計予算を議題とします。

執行の説明を求めます。

税財政課長。

税財政課長（藤永 大治 君）

それでは、議案第30号の1ページをお願いいたします。

第1表歳入歳出予算。

歳入。1款町税15億6,106万4,000円、1項町民税6億7,650万1,000円、2項固定資産税7億903万3,000円、3項軽自動車税5,553万円、4項町たばこ税1億2,000万円。

2款地方譲与税5,801万1,000円、1項地方揮発油譲与税1,200万円、2項自動車重量譲与税

3,800万円、3項森林環境譲与税801万1,000円。

3款利子割交付金40万円、1項利子割交付金、同額です。

4款配当割交付金300万円、1項配当割交付金、同額です。

5款株式等譲渡所得割交付金500万円、1項株式等譲渡所得割交付金、同額です。

6款法人事業税交付金1,900万円、1項法人事業税交付金、同額です。

7款地方消費税交付金3億2,800万円、1項地方消費税交付金、同額です。

8款環境性能割交付金400万円、1項環境性能割交付金、同額です。

9款地方特例交付金5,642万1,000円、1項地方特例交付金5,642万円、2項新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金1,000円。

2ページをお願いいたします。

10款地方交付税17億5,400万円、1項地方交付税、同額です。

11款交通安全対策特別交付金120万円、1項交通安全対策特別交付金、同額です。

12款分担金及び負担金3,688万6,000円、1項負担金、同額です。

13款使用料及び手数料1億9,531万7,000円、1項使用料1億5,276万2,000円、2項手数料4,255万5,000円。

14款国庫支出金14億5,288万1,000円、1項国庫負担金8億3,902万9,000円、2項国庫補助金6億1,064万5,000円、3項委託金320万7,000円。

15款県支出金5億7,137万円、1項県負担金3億8,713万4,000円、2項県補助金1億6,002万1,000円、3項委託金2,421万5,000円。

16款財産収入2,511万7,000円、1項財産運用収入1,734万3,000円、2項財産売払収入777万4,000円。

17款寄附金6,000万3,000円、1項寄附金、同額です。

18款繰入金9億4,721万8,000円、1項基金繰入金、同額です。

3ページ、お願いいたします。

19款繰越金8,000万円、1項繰越金、同額です。

20款諸収入1億1,131万2,000円、1項延滞金、加算金及び過料50万円、2項預金利子2,000円、3項貸付金元利収入5,050万円、4項雑入4,456万9,000円、5項受託事業収入1,574万1,000円。

21款町債14億4,680万円、1項町債、同額です。

歳入合計87億1,700万円。

4ページをお願いいたします。

歳出。1款議会費8,715万4,000円、1項議会費、同額です。

2款総務費11億1,312万9,000円、1項総務管理費9億8,733万8,000円、2項徴税费7,256万4,000円、3項戸籍住民基本台帳費4,846万2,000円、4項選挙費122万8,000円、5項統計調査費94万8,000円、6項監査委員費258万9,000円。

3款民生費22億8,948万9,000円、1項社会福祉費10億8,117万5,000円、2項児童福祉費12億811万4,000円、3項災害救助費20万円。

4款衛生費23億4,979万6,000円、1項保健衛生費4億9,097万3,000円、2項清掃費18億5,233万4,000円、3項診療所費648万9,000円。

5款労働費47万5,000円、1項労働諸費、同額です。

6款農林水産業費2億593万5,000円、1項農業費1億9,860万7,000円、2項林業費712万8,000円、3項水産業費20万円。

7款商工費9,313万2,000円、1項商工費、同額です。

5ページをお願いいたします。

8款土木費9億6,103万6,000円、1項土木管理費1億1,339万8,000円、2項道路橋梁費2億4,744万5,000円、3項河川費8,181万2,000円、4項港湾費335万円、5項都市計画費4億1,721

万4,000円、6項住宅費9,781万7,000円。

9款消防費2億3,721万8,000円、1項消防費、同額です。

10款教育費7億6,159万1,000円、1項教育総務費1億3,109万8,000円、2項小学校費1億9,349万3,000円、3項中学校費9,991万9,000円、4項幼稚園費1億2,061万6,000円、5項社会教育費1億7,242万8,000円、6項保健体育費4,403万7,000円。

11款災害復旧費1,416万3,000円、1項農林水産施設災害復旧費396万円、2項公共土木施設災害復旧費1,020万3,000円。

12款公債費5億3,766万8,000円、1項公債費、同額です。

13款諸支出金5,654万7,000円、1項基金費、同額です。

6ページをお願いいたします。

14款予備費966万7,000円、1項予備費、同額です。

歳出合計87億1,700万円。

7ページをお願いいたします。

第2表債務負担行為。

事項、広報紙作成業務委託料、期間、令和7年度から令和9年度まで、限度額2,301万8,000円。

事項、第7次総合計画後期計画・第3期総合戦略策定支援業務委託料、期間、令和7年度、限度額1,000万円。

事項、固定資産土地評価業務委託料、期間、令和7年度から令和8年度まで、限度額3,630万円。

事項、放課後児童健全育成事業運営委託料（令和6年度契約）、期間、令和6年度から令和9年度まで、限度額2億402万1,000円。

8ページをお願いいたします。

第3表地方債。

起債の目的、臨時財政対策債、限度額1,270万円。起債の方法、普通貸借又は証券発行。利率、年2.0%以内（ただし、利率見直し方式で借り入れる資金については、利率見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）。償還の方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議する。ただし、町財政の都合により据置期間及び償還期限を短縮し、又は繰上償還もしくは低利に借り換えすることができる。

続いて、（公共施設等適正管理推進事業債）市町村役場機能緊急保全事業、限度額2億640万円。

起債の目的、（一般廃棄物処理事業債）ごみ処理施設基幹的設備改良事業、限度額9億4,320万円。

起債の目的、（緊急自然災害防止対策事業債）自然災害防止県営事業（緊急地すべり等保全事業）、限度額820万円。

起債の目的、（緊急浚渫推進事業債）浚渫推進事業（農業用ため池事業）、限度額600万円。

起債の目的、（緊急自然災害防止対策事業債）自然災害防止事業（農業水利施設事業）、限度額1,040万円。

起債の目的、（公共施設等適正管理推進事業債）長寿命化事業（道路舗装補修事業）、限度額7,420万円。

起債の目的、（緊急自然災害防止対策事業債）自然災害防止事業（道路防災事業）、限度額1,200万円。

起債の目的、（公共施設等適正管理推進事業債）、長寿命化事業（道路交通安全施設補修事業）、限度額720万円。

起債の目的、（公共事業等債）防災安全対策歩道整備事業、限度額1,090万円。

9ページをお願いいたします。

起債の目的、（緊急浚渫推進事業債）浚渫推進事業（河川事業）、限度額3,060万円。

起債の目的、（緊急自然災害防止対策事業債）自然災害防止事業（砂防事業）、限度額4,950万円。

起債の目的、（緊急自然災害防止対策事業債）自然災害防止県営事業（海岸保全事業）、限度額330万円。

起債の目的、（公営住宅建設事業債）公営住宅改修事業、限度額3,890万円。

起債の目的、（脱炭素化推進事業債）図書館照明LED化事業、限度額3,330万円。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

歳出の42ページ議会費から75ページ監査委員費までの質疑を行います。

質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

それでは、質疑もないようです。

これで、42ページ議会費から75ページの監査委員費までの質疑を終わります。

次に、75ページ民生費から109ページ診療所費までの質疑を行います。

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

ページはどこか分かりませんが、県の100%の補助で保育士不足の改善ということで、何かお金が190万円ほどきとる案件があったんですけども、具体的にどのようになるのか、ちょっと。今は10分の10で結構なんですけども、これが単年度で終われば、また来年度はないとかあるとか、いろいろ県とか国は頭出しの補助金を当初は付けてくるわけなんですけども、翌年度からは各市町村で負担とかいろいろございます。

昨年度ですか、学校給食費の中学校の無償化がされましたけど、今年度は単独で組まれている。ですから、一旦取り組めば、それが継続的に永久にしくなくちゃいかん課題があるものから、財源の確保が大変だろうということでお尋ねするわけですが。

今回の保育士さんに2万円、研修を受けた場合には支給する、形は補助金で予算は組んであるわけなんですけども、具体的に中身をもう一度精査して、来年度以降が、まあやめるわけにはいかないものから、そこら辺の財源の裏づけとか、そういうところはどのように考えておられるのか。

また、研修すればいいということなんですけども、どういうカリキュラムを何回するとか、具体的にまだはっきり分からないものから、目的については賛同はできるところもあるんですけども、正職員又は会計年度のパート、フルタイム、それから各私立とかの介護支援している保育士さんとか、いろいろな分野が町内にはあるものから、具体的に範囲がどこまでの方を対象になさるのか、これは担当課のほうが分かると思うんですけども、そこら辺のところを今ひとつ説明をいただきながら、町長答弁をお願いいたします。課長さんからでいいです。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

今、議員がおっしゃった補助金につきましては、93ページでございます、学ぶ保育士等応援事業補助金190万円、この補助金についてでございます。この補助金につきましては、先ほど議員も申されましたとおり、保育士1人当たり2万円の補助金ということで、今、計上しております保育士の数につきましては、町内の保育園に在籍しておられる保育士さん95人分の補助金となっております。

それから、今回の補助金の対象者につきましては、保育士、保育教諭、幼稚園教諭ということで、いずれも非常勤の方も含まれる保育士さんが対象というふうになっております。

それから、議員お尋ねの研修の内容になりますけれども、研修の内容につきましては、まだ県のほうが要綱のほうを定めておりませんで、来週また、学ぶ保育士の補助金の説明会がありますので、そこで確定した要綱のほうは示されると思っております。今、案としましては、県が別に定めるテーマ及び内容で実施する園内の研修、それから、幼児教育アドバイザー等の派遣を受けて実施する園内の研修、これらが研修の対象というふうになっております。

それから、これが単年度かどうかというところなんですけれども、これにつきましても、要綱等がまだ示されておりませんので、要綱が示された折には、また委員会等でも報告をしたいと思っております。

説明は以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

具体的に内容はまだ県のほうからきていないということですが、ある程度やっぱり予算編成のときは、県も資料をやってもらわないと判断がつかんもんですから。

年間、研修がどういうのがあるのかですね。研修というのは普通自分で研修して、それは一般職の私たちでもそういう制度ばとれば、職員の研修にも2万円をやるようにしなくちゃいかんということも出てくるもんですからね。それで、時期はいつ頃から支給するのか、いろいろちょっと考えるところもあるもんですから、そしたら、今のお話では、全ての佐々町内の95人分とおっしゃったもんですから、町内でどういう保育士さんがどこに勤務なさっとるか、私は把握していないからちょっと分からんとですけれども、私立、公立も問わないということになるのか、そうした場合、補助金でやって、それが職員の場合は手当になるのか、そこら辺の考えをちょっと聞いておきたいなど。別に、別途支給ですからその分減額になるのか、もし職員にも該当するのであれば、そこら辺の整理はどうなさっていくのかなどちょっと心配するところもあるもんですから、ちょっとそこら辺だけ確認をさせてください。

そして、もし、多分、時限的に3年なら3年、あとはどうするかという問題が多分出てくるはずですから、そこら辺については、やめるわけにいかないもんですから、保育士の不足というのは全国的な問題は認識しているんですけども、どこまで、なくなった場合どのようにお考えかというのは、やっぱり町長にお尋ねしておきます。

財政が厳しいと毎回いろんな質問出てきておりますけれども、最終的には財源がないという言葉で濁されてきているもんですから、減らすところは減らしていかなばもんですから、そこら辺の確認だけさせてください。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

支払いにつきましては、手当で支払うということになっております。今、ちょっと確認が取れていないところなんですけども、この手当が非課税か課税かというところは、また、要綱等が示され次第、報告をさせていただきたいと思います。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

私立とか公立とか、時期はいつ頃かとか。
住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

支払いの時期につきましては、3月1日在籍の保育士さんに対しての支給になります。今現在では、12月から3月までに支払うということで予定されております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

私立も公立もですか。
住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

今のところ町立のほうはまだ、予算上上げておりませんが、要綱を整理する際に、公立のほうも入れるかどうかは検討していきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

学ぶ保育士の新規事業ということで、補助金が190万円、県からこれを行っているということです。先ほど須藤議員もおっしゃるとおり、何年間やるのか私も分からないわけですが、1年間かも分からないということになるわけですが、それで、これを、また先ほど申されましたように、県がそこで3年間なら3年間で打ち切って、その後、町がまたやらざるを得なくなるのではないかとということでございますので、やはりこれも県のほうで継続をしていただくように、やはりお願いしなければならないとは思っていますので、よろしくお願申し上げたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

県については、全国県下一斉ですが、もし、できないってなった場合、しなくちゃいかん課題なのかどうかというのをちょっとお尋ねしているんです、全体的に。そこら辺は、県がやらんなら、全て、国も県もこういう手段をとってくるもんですから、非常に私、いい気持ちしておらんもんですから、あとは市町村に任せると、普通、補助金はそうあってあるんでしょうけど、特に農業分野は特にそうですし、5年スパンでもう見直さなさいということで切られるもんですから、そこら辺のところをよく考えて、後ほどまた総括で質問いたしますので。私は結

構です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに質疑ございませんでしょうか。

7 番。

7 番（永安 文男 君）

85ページ、ここで指摘するのかがちょっと思ったんですけども、85ページの一番上の地域サロン関係、これにつきまして、当然、各町内会で地域デイサービス等がなされておった中で、何か社会福祉協議会が地域福祉の根幹をなすものというふうに考えていたんですけど、社会福祉協議会からいろいろデイサービス関係でおいでになられておったわけですけども、3月いっぱいこの関係が終わりということで、私たちも来れなくなりましたというような話を聞いておるんですけども、これについて、この85ページのこの、地域共生に向けた地域サロン事業との関係で、それから、このことについての背景といいますか、どういう状況でそういうふうに計画されたのか、変更されたのかということ、まずお尋ねしておきたいと思います。

それから、あと、86ページの子ども・子育て関係の報酬から、それから委託料関係があるわけですけども、これについて、町長からは、今後、第3期の子ども子育て支援事業の計画を策定する中で、ある程度、子ども・子育て関係の方向性を具体的に煮詰めていくというようなお話でございましたけれども、そのことについて、委員報酬というのがあるわけですけども、これはどういった体制、枠組みになるのか、それから、関係する所管関係等の枠組み関係で、こういうふうな委員報酬等を計上されて、そして中身関係がどういうふうに、町長が言われたとおり、佐々町の方向性、保育、子育ての方向性をどういうふうに審議していく内容なのかということをお伺いしておきたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

多世代包括支援センター長。

多世代包括支援センター長（松尾 直美 君）

議員御質問の地域サロンにつきましてですけども、地域サロンは、従来、平成9年から長年、地域の社会福祉協議会さんのほうの主導により、地域のお集まりにつきまして活動を補佐していただいて、今、各町内会ごとに実施をしていたところでありまして、3年ほど前の地域福祉計画の策定から、多世代型交流につきまして、そういうことをずっと、経過的には地域サロンにおいても、社会福祉協議会さんからのレクリエーションのみならず、いろんなテーマで入り、それぞれの活動との交流というところを話をしてきたところでもあります。

今回、多世代包括支援センターが昨年、4年度からできましたことで、更にこういうところを意識していただくことで、町内会におきまして、高齢者の方のみならず、様々な団体とのコラボレーションであったり、社会福祉協議会さんからのレクリエーションのみならず、地域で行うところのいろいろな出前講座とかスポーツレクリエーション、又は聞こえの相談会みたいな、そういうメニューをそれぞれ各町内会で提案を組んでいただき、それに、多世代包括支援センターのほうで社会福祉協議会さんのサポートを受けながら補佐していきたいというふうに考えておきまして、今後、地域サロンがいろいろな方の交流の場所になるよう、地域が活性化できるようにということをお提案して、6年度から実施していきたいと考えておるところです。以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

今回の子ども・子育て会議の委員さんなんですけども、今、20名を予定しております。委員さんがどんな方かって言いますと、前は各種団体の会長さんだったり、あと、今、福祉センターのほうで「ぷくぷくクラブ」をされている方、その代表の方とか、町内の小学校の校長先生、あと保育所の方、そういった方を委員さんとして選ぶように、今考えております。

それから、今回、アンケートのみの委託料ということで予定しております。アンケートとしましては、幼稚園と保育所を利用されている方へのアンケート、また、家庭保育をされている方についてのアンケート、それから、前は、小学校までの児童生徒のアンケートを取っていたんですけども、国のほうからも子どもの意見を幅広く聞くようにということ言われていますので、できれば中学生、高校生の御意見も聞くようなアンケートを実施したいと思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
7番。

7 番（永安 文男 君）

地域サロンの関係については、町内会の新しい方向で活性化を求めるといふ形の模索をして、そういうふうな形づくりをされたというふうに分かるんですけども、それぞれ町内会長さんあたりの認識というか、どういうふうな説明、経過ですね、内容の説明等がなされていない、急遽そういうふうな、何か話が、該当者のほうにそういうふうな経緯があるものから。

やっぱり今までそこで、いろいろ元気であるというようなことを皆さん方に話しながら、そして、いろいろと間違い探しをしたりとか、いろいろなことをやられて楽しまれておったのが、もう今後それが無いというふうに伝わっているみたいなんです。その辺が町内会長さんあたり、いろいろ福祉関係者あたりにどういうふうな説明をされているのかというのが、私は皆目ちょっと見通せないものから、そのことをお尋ねします。

それから、あと、子ども・子育て会議の関係ですけれども、これ、以前のメンバーそのまま踏襲されるのかどうか。諮問のほうでいただいた内容がある程度限定された中で、今後の佐々町の子ども・子育て関係の方向性というか、それぞれ、私も結局、私立保育園等は当然民間に民営化したときに、それぞれの代表者というのがもうお亡くなりになったりして、方針等が変わってきたりして、今、次の代の方あたりでいろいろ協議がなされたりしているものから、その辺のことを踏まえて、前の諮問のほうにいろいろ御知恵をいただいた関係じゃなくて、そういうふうな幅広く内容を、御意見をいただくような体制を組まれるのかどうか、再度お尋ねします。

議 長（淡田 邦夫 君）
多世代包括支援センター長。

多世代包括支援センター長（松尾 直美 君）

これまでの経過につきまして、半年ほど前から社会福祉協議会さんとの打合せの中、今後におきましてというところを調整をしてきて、各町内会のほうには、昨年から一か所一か所、そ

このサロンに携わる方との話し合いを十分に実施しまして、内容についての変わる点とか、今後、今までのものが確実に全部変わるのではなくて、いろいろなテーマでやっていきたいと思いますところの御説明ではありまして、2月に町内会長会のほうに全般で説明をさせていただいたんですけども、やはりその部分、ちょっと十分な御説明、御理解が不足していたという点につきまして、そこで反省もいたしまして、再度、町内会長さんのほうにお話をやっていた、実際、まだ2度の形の説明にはなりましたが、丁寧に説明を今してありまして、月1回レクリエーション連絡会というのを開きまして、そこに今現在、サロンに携わる民生委員さんでありましたり、協力員さん、あと町内会長さんも御参加いただき、レクリエーションに限らず、内容のそれぞれの情報交換を行ったりというところで、少しずつまた、今、御理解を得ているところと感じております。

6年度が始まりましたら、より一層丁寧に、町内会が、それぞれ地域サロンが混乱をしないように、お困りにならないように、寄り添い支援をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

議長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

子ども・子育て会議の委員さんにつきましては、議員さんおっしゃるとおり、幅広い団体のほうから選出させていただきたいというふうに思っております。

それから、今年度計画策定しました、保健福祉計画を策定しました折に、地域共生推進会議のほうで策定したんですけども、そちらのほうにも子ども・子育てに特化した委員さん方もいらっしゃいますので、そういった方も検討しながら、委員さんのほうを選定していきたいと思っております。

それから、この子ども・子育てにつきましては、住民福祉課に限らず教育委員会、多世代包括支援センターとも連携して策定していきたいと思っておりますので、そちらのほうの意見も聞きながら委員さんを決めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議長（淡田 邦夫 君）

7番。

7番（永安 文男 君）

分かりました。それぞれ地域での関係については、始まって内容を親切、丁寧にトラブルのないように御説明をしていくと、寄り添って対応をしていくという答弁でしたので、それについては、それぞれ認識がない高齢者の方あたりも、今、寂しいとも言われているんです。そうした中でよろしく、当然、交流と活性化、いろいろそういう見地からのことと思っておりますので、その辺で要望をしておきたいと思っております。

それから、あと、子ども・子育て会議関係は、92ページの佐々町私立保育園「さざっ子」育成プロジェクト事業補助金との関係です。これも私立の保育園等に関して、いろんな協議の要素といいますか、あと、教育委員会で、この前の勉強会の時にもお話ししましたように、さざっ子育成プロジェクト関係等で、やはりそういうふうな横断的に、そういうふうな子育ての協議をしていく内容を、今、課長のほうから答弁いただいたんですけども、その辺についてはくれぐれも、あと、今度3期をつくる意味においては、重要な時期だと思っておりますので、よろしくお願いしておきたいと思っております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

答弁いいですね。

4番。

4 番（永田 勝美 君）

82ページと86ページの分で質問いたします。

一つは、82ページの社会福祉費の中の高齢者外出支援タクシー利用助成費についてですが、今回1,281万6,000円が予算化されているんですけども、全体として何件ぐらいを想定されているのか。前年度と比較して、私の記憶では、令和4年度と5年度の比較では、5年度のほうがやや減少していたのではないかという、件数について思っているんですけども、それが6年度に向けてどういうふうな取組を考えておられるのかということを知りたい。

あと、86ページは、いわゆる学童保育の件なんですけども、放課後児童健全育成事業運営委託料なんですけども、現在の利用者の概数はどうかということと、それから、費用の負担がどのようになっているのかということ、それから、他の市町では、学童保育についてもいわゆる負担軽減策というのがとられているという話を聞きますけれども、こういったいわゆる子育て支援という角度から、保護者の負担軽減策についてお考えのことはないのかということについて伺いたい。

以上2点です。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

学童のほうから先にお答えさせていただきます。学童保育につきましては、今現在、佐々小学校が84名、口石小学校が139名在籍しております。

それから、議員お尋ねの学童保育の保育料につきましては、月5,000円の保育料ということになっております。あと、免除といいますか補助につきましては、ひとり親世帯に対しましては2分の1の補助を今しております。

タクシー券につきましては、ちょっと数字のほうを調べさせていただいてもよろしいでしょうか。すみません。

議 長（淡田 邦夫 君）

しばらく休憩します。

（10時40分 休憩）

（10時41分 再開）

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

時間をいただいて申し訳ありません。

タクシー券につきましては、今、申請者が930人いらっしゃいます。今回は、申請者を1,000人見込んで助成のほうを計上させていただいております。大体、該当者の4割ぐらいの方が、今、申請をされているところです。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

永田議員がおっしゃいました、高齢者外出支援タクシーの件でございます。この件につきまして、2分の1の今負担をしているということで、もう近くの人たちも2分の1ということで、利用者が大分減っているということも、この前御質問がありまして、我々もやはりこれをどうするのかというのは、やはり今後考えて、今度6年度に向けて、利用者を柔軟にやっぱりどうするのかというのは柔軟な考えを持ってやっていかなければならないと思っていますので、検討させていただければと思っていますので、よろしく願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

4番。

4 番（永田 勝美 君）

外出支援タクシーについては、私も再三取り上げておりますが、やはり従来のと違いますか、初乗り運賃だけのときには、いわゆる全額補助であったものがそうなったと。計算上は持ち出しはそんなに変わらないというふうに思っていたんですけども、拡大していくとと思っていたんですが、現実にはなかなか利用者が伸びない。非常に町民からも不満の声が寄せられているというようなこともありますので、ぜひそういった点については、町長言われたように、利用者の使い勝手がいい制度に更に改善を求めておきたいと思います。

それから、あわせて学童保育のほうなんですけども、例えば、あまり数は多くないのかもしれないですけど、兄弟で利用するとか、学童保育を。2人低学年の子どもさんが、1年生と3年生とか、2年生と3年生とかっていうそういう子どもさんがおられる場合、いわゆる複数以上で預けられる保護者についても、特に軽減措置はないのか。

それから、あるいは、金額的に5,000円という金額がなかなかやっぱり、年間でいくとやっぱり5万円ぐらいかかるということになるし、夏休みとかについては、夏休みとかはちょっと料金違うのかなという気もするんですけども、そのあたりも含めてどうしたものかなというふうに思うんですが、言っていること分かりますかね。現状についてと、それから、今後の検討策についてお答えいただければと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

先ほど申しましたように、利用料につきましては、ひとり親世帯の分の補助の分を出しておる状況です。

今のところ、ひとり親世帯だけの補助金を出しております。複数のは今のところはないです。

今後なんですけども、先ほど申しました子ども・子育て支援計画のほうでも、保護者等からもアンケート等をいただく予定になっておりますので、そちらのほうの意見を聞きながら、補

助金のほうも今後検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
4 番。

4 番（永田 勝美 君）

ぜひ、そういった点について取り組む、実は私の知り合いといえますか、例えば、福岡市なんかでも、学童保育については非常にいろいろ手当てをしているという事例なんかもありますし、全国的にも様々な負担軽減措置というのは取られているようなので、このあたりはぜひ、参考にして、検討いただければということをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

すみません、先ほどの答弁の訂正をさせていただきます。

補助の対象が、先ほどひとり親世帯というふうにお話したんですけども、あと3件ほどありましたので御説明します。

生活保護を受給している方、それから、生計を同一にする児童が3人以上いる世帯であって、その世帯の所得割が9万7,000円未満の方、こういった世帯も該当しておるようになっております。よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。これで75ページ民生費から109ページの診療所費までの質疑を終わります。

次に、110ページ労働費から141ページの消防費までの質疑を行います。

6 番。

6 番（阿部 豊 君）

令和6年度の当初予算におきましては、3日間の勉強会で、私どもの任期中、本格的な最終予算の審議というのは、この令和6年度が最終任期内の本格予算ということで、改めて勉強させていただきました。

財政状況という観点で総括質疑を行いたいと思っておりますけど、特にこの一般会計については、財政的な観点から大きな課題があるということで思っております。

財政としては、令和5年度に投資的事業のピークを迎えることとなったが、6年度において例年以上の経費が見込まれると、基金を取り崩しながらの厳しい財政運営と、無駄の排除による歳出削減に取り組むというような説明がしてありますが、業務の進め方という観点から質問をさせていただきます。

議長、111ページの農業委員会費の会議録と141ページの消防費までなんですけど、141ページの教育委員会の会議録の業務委託ということであわせて、ちょっと次の質問にまたがるんですけど、内容が同じなんでよろしいでしょうか。すみません。

議 長（淡田 邦夫 君）

認めます。

6 番。

6 番（阿部 豊 君）

111ページ農業委員会の会議録の業務委託、同じくページ141ページの教育委員会の会議録の業務委託という点で質疑をさせていただきます。

両委員会は、首長から独立した行政委員会ということですが、予算要求においては、各行政委員会から首長のほうに予算要求があって、今年度の予算が編成されているということで、私も職員OB議員として、今回ちょっとびっくりしたんですけど、会議録が業務委託されている。議会事務局においては、職員3名体制に会計年度任用職員の1名ということで、各種委員会が多くあって本会議もあると、一生懸命会議録を作成されているのも拝見しております、身近に。会計年度任用職員さんも一生懸命会議録を作成されている。あまりの多さと期限の締切りのために業務委託をしているという分については、ある程度のやむを得ないというふうに認識しているんですけども、農業委員会及び教育委員会は、定例は多分月1回だというふうに認識しております。

私も農業委員会に所属していたんですけど、熱心な委員さんは、一つの発言でA4、4ページも5ページも発言されるような委員さんも昔はいらっしゃいました。現状は知りませんが、教育委員会の会議録を見ても、ページが12ページぐらいと非常に少ないわけです。これを金額が農業委員会で26万4,000円、教育委員会で20万円、勉強会の際に教育長がおっしゃられたのは、要綱第14条に基づいて作成をしておるというふうな説明がありましたけれども、実際見させていただくと、要約版と全ての会議録を網羅したものを2つ作っているというふうに伺いました。

現状、長い、昔はアナログ的にテープで取って、それを文字を職員が起こして会議録を作成、私もしていました。何年もたまったのをさせられた覚えがあります、はっきり言って。現状、現在は技術も進んで、録音の精度も上がっているし、これを文字化するアプリもあると。Aさんが発言した、Bさんが発言したというのもすぐアプリが変換してくれるようなソフトもあるというふうに伺っております。そういったソフトを活用すれば容易に作成できるのではないかと思います。

ましてや、概要版と全てを記載した会議録を2つ作る業務委託を出している。それほどまでに忙しいのかと。ましてや、この会議録というのは非常に重要で、私も作っていて、この委員さんはこういった考えの下に熱心にこういう思いで発言されているのかと、自分で起こすことによって非常に勉強にもなりました。これは、本来、職員が行うべき大事な通常業務じゃないかというふうに私は認識するんですけども、こういったものを、少ない金額といえ外注に出されているということに対して、私ははっきり言って、財政が一生懸命予算を組まれている、歳出削減に取り組むということにはちょっと相反するのではないかというふうに感じましたんで、町長の見解を伺いたい。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

御質問がありましたことに対して、私もちょっと多分そこは見落としていたんじゃないかと思っております。予算査定の時ですね。ただ、やはり教育委員会、私は農業委員会等はいろいろ発言量が物すごく多くて、会議録は要るんじゃないかということで思っております。実際

的には、月に1回の農業委員会があるわけです。その中でいろいろな御意見が出るということ。それから、今、農業委員会の職員は1人でやっているということで、そこら辺が多分厳しいのではないかとということで、農業委員会のほうは委託しているんじゃないかと思っている。

ただ私は、教育委員会のほうはちょっと自分たちで作っているのかなと思っていたんですけど、そういうことがありました、今、阿部議員からありました御質問については、やはり十分中身をもう一回精査をしながら、どうするのかというのは役場内で話し合いをしてやっていかなきゃならないと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（淡田 邦夫 君）
教育長。

教育長（黒川 雅孝 君）

大体、定例教育委員会が2時間ほどの会議を持っております。テープ起こしをするとすれば、業務として2時間聞きながら打つということになれば4時間ということで、職員の働き方改革といえますか、業務量の削減ということをお願いをしているところでございます。

一応、詳細版といえますか、テープ起こしをする部分について業者委託をして、あとはそれを基に、先ほど議員もおっしゃった、佐々町教育委員会会議規則の第14条にのっとり議事録を作成しているというような状況にございます。これも精査までかけるとかなりの時間を要しておるのは確かでございます。

以上です。

議長（淡田 邦夫 君）
6番。

6番（阿部 豊 君）

会議規則の要綱の第14条は要約していいというふうな記載はありません。もう認識が全然間違っていると。それは正しておきたいと思えます。

ましてや私、答弁しましたよね、先ほど説明で。文字起こしをするソフト、アプリがあると言っているじゃないですか。全てを私が現職時代に、カセットテープから聞き起こして作成しましたよ、何十ページも、何年分も。そういったことをしなくていいようなソフトが今あると言っているじゃないですか。それがDXじゃないですか。そういったものを活用すれば外注経費が削減できるんじゃないかと、そういった検討はなされないのかということで、勉強会の際に、私は少しあきれました。だから、あえて本会議で質疑をしている次第です。もうちょっと深く、それこそDXじゃないですか。外注に出す必要ないんじゃないかって私は思っているんですけど。

出てきたものをホームページに載せる、対住民の方にお知らせすることですよ、それを要約する。結局、会議のありのままが分からないんです、私なんかも見つ。会議録になっていないと。ましてや、要約するとあらぬ疑いを持たれるんじゃないですか。都合の悪いのは削除して、都合のいいのだけ載せているっていうふうなんです。会議録を公開する、ガラス張りに住民の方に公開するというのはあるべき姿であって、要約はあらぬ疑いを持たれる。ましてや、出てきたのを要約するためにまた職員が仕事をするって。お金をかけた上に業務は変わらない。業務の工夫の仕方が間違っているっていうふうにありますので、あえて私は今回、質疑の中で課題を総括で全般的には言いたいんですけど、その一番細部の点で質疑をさせていただきましたので、全体的な課題としての問題提起での質疑ですから、まとめた部分は総括の際に再度させていただきます。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

今、阿部議員がおっしゃったように、農業委員会それから教育委員会の議事録につきましては、教育委員会の要約というのはちょっと要らないんじゃないかと思います。そのままを書けば、残しておけばいいわけでございますので、そこはちょっとまた話をさせていただきたいと思っておりますけど、2つの課についての議事録については、十分、また内部で共有しましてやっていきたいと思っておりますので、御理解をいただければと思っておりますのでよろしく願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかに質疑ございませんでしょうか。
7番。

7 番（永安 文男 君）

121ページ、林業振興費の関係です。

15節の原材料費の林道補修用原材料っていうふうに、今、計上されているんですけども、これは私も町道の関係の時には、勉強会でちょっとお尋ねしたんですけども、再三、路面の保全関係が、あらゆるところを見て回ったときにあるというふうに、町道については、山間部辺りまでちょっと手が届かないというふうな回答で、今後対応されると思っておりますけれども、林道について、状況的にはどういうふうな調査、対応、それから今後の見通しをどういうふうにご考えておられるのか、お伺いしたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）
農林水産課長。

農林水産課長（作永 善則 君）

林道についても農道と同様、定期的な巡回を行い、傷んでいるところがあれば、随時、補修の対応をとらせていただきたいと思いますと考えております。
よろしく申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
7番。

7 番（永安 文男 君）

適宜対応していただきたいというふうに思いますが、現実には、林道の関係で、路面がガクッと落ちていところがあるんです。再三、私も執行のほうには申し上げているんですけども、なかなか手が入っていないというようなことで、やはり危険極まりないということで、やはり何か事故があったりしたときは、町の責任を問われるんじゃないかというふうに思っておりますので、その辺については対応方をお願いしたいと思います。

それから、128ページの、一般質問でも申し上げたんですけど、空家対策関係について、今後、新しい法律改正があった中で、いろんな計画関係が変更されるということでお聞きしているんですけども、これが専門家の知恵をどのように入れていくというふうにお考えか、町長、担当課長なりお答えいただければと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）
建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

空家対策の今回の6年度の委託業務を実施するに当たっては、空家対策の専門的なコンサルの支援が必要と考えておるところでございます。今回の計画更新に当たりましては、法改正後すぐの計画更新となりますので、12月の法改正以降、改定された参考となる計画例がありませんので、その辺も含めてコンサルの支援を受けながら作成したいと考えているところでございます。以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）
7番。

7 番（永安 文男 君）

一般質問でも申し上げておりますけれども、団塊の世代が高齢化していく中で、やはり現実、私どもがずっと町内巡回した折には、感覚があるんでしょうけど、私でも46件ぐらいあったんです、ずっと町内。これがその特定空家とか管理不全の空家に該当するかどうかというのは、それぞれ局面が違うというのがあると思うんですけれども、やはり今、課長が答弁されたように、やはり専門家のそういう見地を反映させながら計画をつくっていかれると思うんですけれども。

あと、その後、さっき言いましたように、団塊の世代がどんどんいって、やはり空家もツタが絡んだりとか、もう管理不全になるという状態の中で、その後、計画を練るのは専門家の意見を聞くけども、その後の対応として、それなりの対応の仕方というのがあると思うんですけど、その辺の考えを町長あたり、組込み方っていうのを回答いただければと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

今、建設課長が申しましたように、今後、その取組、予算を今組んでいるわけでございますけど、やはりもう一つの問題は、もう一つは相続関係です。いわゆる登記関係をきちっとやってもらわなければなかなか、これも探すのがまた時間がかかって、壊すこともできないし、それを譲渡することもなかなか難しいということもありますので、やはり全体的な先ほど専門家にはもちろん見ていただきますけど、今後どう利用するのか、取壊ししなければならないのか、我々がもう団塊の世代ですから、我々がいなくなったら、多分、空家は物すごく多くなるとは思いますけど、そういう方向性、それから移住です。移住定住にも利用できるんじゃないかと思っておりますので、そういうことも考えながらやっていかなければならないと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
7番。

7 番（永安 文男 君）

今、町長からお言葉があったように、やはり今後の対策、同僚議員も前の定例会で質問されたように、やはり今後増えていく対応として、これが一番、町の財政逼迫とかいろんな課題に

なってくると思いますので、やはりそこで今町長が言われた相続関係なんかも、具体的に専門的にそういう連携をとってやっていくという策もあるということをお聞きしていますので、その辺、課長のいろいろそういうのを研究しながらやっていくという話を聞いておりますけれども、対応方を要望しておきたいと思います。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。

4番。

4 番（永田 勝美 君）

この部分では1点だけですけれども、ページ数で言うと113ページ。

要するに、ここで出ているのは委託料で、皿山直売所横公衆便所の管理委託料などなんですけれども、皿山直売所のことについてちょっと伺いたいのですけれども、聞くところによると、3月いっぱい一旦休止になるというふうにお聞きしておりますけれども、これからどうなるのかということです。

一つは、具体的な質問としては、もともと皿山直売所というのはどういう目的でつくられたのかと。それに対して、町としてはどのような補助をしてきたのかと。今回、閉まるに至ると、一旦閉まるということなんですけど、なぜ閉まったのかということです。今後の改善策というか、再開に向けた取組などを考えておられるのかということについて伺いたいです。

以上3点です。

議 長（淡田 邦夫 君）

農林水産課長。

農林水産課長（作永 善則 君）

まず、皿山直売所が今度の3月末をもって一旦閉鎖をするという流れになっております。まず、皿山直売所を建てていった経緯というところが、あくまでも農業振興というところで、町内の農業者の方が野菜を出荷して販売をする、地元生産っていう農家さんの顔が見える農作物を購入していただくっていう面においても、これまでの農業振興において役割を担っていたのではないかと考えております。

建物は、まず20年ほど前になりますけど、町のほうで整備をして、直売所利用組合の方が借りるという形で、貸し借りの関係でございます。

閉鎖の原因としましては、やっぱり農業者の方が年々高齢化されていることに伴い、役員の方もやっぱり高齢化している状況でございます。それに伴いまして、もともと農家さんの自主運営という形でございましたので、収益性のところが年々悪化している状況でございます。今年度につきましては、毎月10万円ずつの赤字、基本、年間で120万円ほどの赤字がある。これまでの残余金があった関係上、何とか運営はもっているという状況でございました。

これを継続して運営していくとなっても、またその傷口が深くないように、今のうちに次の枠組みを考えましょうということでの、2月27日の中での総会での決議ということになっております。

今後の方針というか取扱いとしましては、皿山直売所利用組合を事務局という扱いで、再生協議会というのを立ち上げる方向になっております。その中で、新たな経営体を求めて直売所の再開のほうに向けて手続をとっていくという流れでございます。

役場の関わりとしましては、あくまでも農業振興に大切な施設と考えておりますので、最

大限の支援をさせていただきたいと考えているところでございます。
よろしくをお願いします。

議 長（淡田 邦夫 君）

町の補助はあるとかないとか。
農林水産課長。

農林水産課長（作永 善則 君）

町の補助というのはございません。ただ、収益的なものがちょっと厳しい状態であったということで、本来の家賃からすると、本来の家賃が60万円ほどになるんですけど、それを4割減免という形での対応をとらせていただいているところでございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

4番。

4 番（永田 勝美 君）

実質的に、町としては毎月家賃の分24万円を補助してきたということですね。60万円の4割だからね。（農林水産課長「年間60万円ほど。」）年間ね。分かりました。

ここで改めて質問なんですが、これは条例の問題もあるのかもしれないんですけども、いわゆる皿山直売所というのは、農業振興という側面ももちろんあるんですけども、実際にとれたものをあそこで販売する農水産業の振興という側面もあります。やはり地域的に、場所から言えば、例えば皿山直売所というのは、数少ない観光資源である菖蒲園だとかそういったところのすぐ隣地にあって、まさに皿山公園を見に、菖蒲の季節にはたくさんお客さんもおいでになるということもありますし、地域的には佐々町の真ん中ですから、非常に町外の方も大いに利用できる立地というのがあるのではないかなというふうに思うんです。

そういったところを考えると、いわゆるにぎわいの創生というか、農業振興のためのものという側面と同時に、そういったいわゆる観光客の誘致だとか、にぎわいの創生だとか、いわゆるその町外からの来訪者を増やしていくという上でも、非常に有効な手段になり得るのではないだろうか。

だから、再生の枠組みを、再生協議会というのを作ってこうというふうにお考えだということなんですけども、要するに目的そのものを変えようということは考えていないのか。要するに、もう少し幅広く目的を広げることは考えられないのかということについて伺っておきたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

事業理事。

事業理事（今道 晋次 君）

今、農林水産課長が申しますように、皿山直売所再生協議会というのを3月18日に立ち上げる方向で、皿山直売所の利用組合の皆さん方と話をさせていただいているところでございます。

今、4番議員さんが言われますように、再生協議会のメンバーとして、もちろん利用組合の方が入るわけですけども、農業協同組合で農業委員会、商工会、観光協会、社会福祉協議会、十八親和銀行、西海みずき、それから町内会連合会、民生児童委員、町全体でといいますか、地域全体で皆さんをというか、皿山直売所をサポートするような形がとれないかという話を今しておりまして、18日に1回目の会議をしながら、どのような形で進めていくのか。

また、こういったところが次の継承者になっていくのか。今、直売所の皆さん方は、自分たちでの運営が非常に厳しいとおっしゃっていますので、その厳しい中で、農家の皆さん方、利用組合の皆さん方がおっしゃっているのは、私たちは農産物を作って納入するというふうな形で進めていければと。それで、運営、経営をしっかりできる方たちに委ねたいというお話をされていますので、そこを含めて商工会、観光協会、様々な機関、金融機関も入りますけれども、意見をいただきながら、アドバイスをいただきながら、なるべく早いタイミングで新しい形ができるように進めていければというふうに思っているところでございます。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

4 番。

4 番（永田 勝美 君）

私はその際に、そういう再生協議会の役割に大いに期待をしたいところですが、やっぱり目的というのは非常に重要ではないだろうかというふうに考えていまして、やはり農業振興という側面だけで直売所を捉えるというのは、やはり視点が狭くなるのではないだろうかということを申し上げておきたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

8 番。

8 番（橋本 義雄 君）

皿山直売所については、今、同僚議員が質問されましたので、一つだけ。

今、公園管理についてなんですけども。（議長「何ページ。」）

公園管理ですか。134かな。三大祭りの予算については、ピシャッと予算を組んで、そしてやっておられます。しかしながら、それを主として見に来られる、菖蒲、それからしだれ桜、河津桜については、予算がちゃんとここに幾らというのが示されていないんです。ですから、花が咲いても悪くても、これだけやったからこうなんだという示しがついてこないの、やはり別々に予算を組んで、皿山、例えば菖蒲園はこれだけかかるんだと、そして、河津桜についてはこれだけの予算でこうした管理をしていくんだと、そういった方向性をつけてちゃんとしないと、もう皆さん大勢の方が、佐々町のその三大祭りに来て楽しんでいかれるんですから、そういった栽培的なものもちゃんと位置づけて、皆さんが喜ばれるように、毎年花がきれいに咲くように努力をしてもらいたいなと思うんですけど、どうでしょうか。

議 長（淡田 邦夫 君）

公園管理。

町長。

町 長（古庄 剛 君）

公園管理といいますか、三大花祭りということで、今、御意見があったわけです。予算の明細をしてくれということで、これもなかなか今この予算をつけるというのは難しいわけです。最低限の維持管理をやっていかなければ、なかなか今の状態では難しいんじゃないかと思っていますので、やはりそういうところってということで、我々も最低限の整備をやって皆さん方に楽しんでいただけるような仕組みというのを考えていかなきゃならないと思っていますので、どうぞ御協力いただければと思っています。よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
8 番。

8 番（橋本 義雄 君）

予算がないというよりも、やっぱりやる気なんです。いつも言っているでしょう。どうしたら花が咲かせるか、ちゃんとした見本は大村公園にあるんですから、そういったものを学びながら、ぜひ努力していただきたい。

例えば、あそこの真竹谷に行く前に草がいっぱい放置されているんです。どこかいつか片づけて燃やすということですか。町有地に。ああいったものはカッターで切って、ぬかを混ぜて堆肥を作れば肥料になるんです。そがん金がかからんでできますので、そういった自然のものをちゃんと利用しながら管理をすれば、そがん予算たくさん要らんでできると思いますので、そこんところもよろしくお願いします。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかにございませんか。
9 番。

9 番（須藤 敏規 君）

もう町長就任になって15年目が終わろうとしとるんですけど、来年で最終年度か、また改めて4年来られるか分かりませんが。町にはいろんな計画がございます。夢を持った計画がたくさんあるわけですけども、今回は、毎回一般質問をしておりますけど、公営住宅の長寿命化計画についてお尋ねしていきます。

やはりもう15年以上もなって、原課が今回の予算編成で、公営住宅の建替えについて要求されたのかどうかです。これだけあって、もう令和7年度には建替計画は終了する計画になっているわけです。なぜしないのか、必要じゃないのかっていうのをお尋ねしたいんですけど。

国県の補助金で、それぞれ町営住宅の外壁塗装、いろいろされています、補助金があるから。しかし、重要な案件の都市計画の中の公営住宅の建替計画はなぜ進まないのか。町長は、これは重要案件じゃないと考えておられるのかどうかです。それはそれで結構ですけども、住みたい町を目指しておられるから、前期の子育て世帯とか後期の子育て世帯とか、そっちに重点を置かれるのは結構ですけども、あとは働ける町をつくるのか、みんなが訪問して訪れてくれる町をつくるのか、いろんなテーマがあろうかと思いますが、なぜこの公営住宅の建替計画が、予算上ではお金要らないかもわかりませんが、県とかに申請するのに1年はかかるんです。一、二年。なぜ取り組まないのかっていうのをちょっとお尋ねしておきたいと思います。

まして、特定空家で52戸、もう15年も空家にしといて、本来入れとけば住宅の使用料とかが幾ら入ったかと思えば、1億円ぐらい入ったかなと思うんですけど、試算はしていませんけど、なぜ要求しなかったのか。しておけば査定、町長でどう減額されたのかというのを担当課長にお尋ねして、あとはあとで町長にお尋ねします。

議 長（淡田 邦夫 君）
建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

特定空家の件なんですけども、現在、牧崎団地の平屋と——（須藤議員「分かっとなる言うてくれるなら、収入が幾らぐらい15年間で入ったかだけ教えてください。」）

議 長（淡田 邦夫 君）

要はなぜせんやったとか。
建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

公営住宅の建替えにつきましては、長寿命化計画で令和3年度から10年度間に建替え、現地建替え、集約建替え、又は用途廃止にして決定して取り組むこととしておりますけれども、平成30年8月に建替計画について、牧崎団地に高層の住宅を建築し周辺団地を集約していく等、少し具体的な内容を説明した経緯もございますけれども、町内4大事業を進めるための財源調整のため、町営住宅の建替計画は計画的な実行が進んでいないところが現状でございます。以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

長寿命化ということで、牧崎団地の建替えもしなければならない、それから里山団地の取壊しをして、新町のほうにも移すという計画で、今までやっていたわけでございますけど、先ほど建設課長の話がありましたように、なかなか進まなかったということ、それから、もう一つは、少し時代のすう勢が変わったのではないかとということも考えています。やはり、公営住宅を今建てる所もなかなか厳しいところもあるわけでございますけど、もう一つは、やはり、それで公営住宅に住むというのがなかなか、今、少なくなつたのではないかとということ、やはり民間の活用したところが多くなつたのではないかとということも考えていますし、しかしながら、やはりそういう政策というのを私のところは上げているわけでございますから、やはり新町のほうの建替えというのはやらなきゃいけないんじゃないかと思っておりますし、その住替えのために里山団地というのは取壊しをやっていかなければならないということは我々も考えていますし、やはり、この事業が終われば、町としまして、やっていかなきゃならないんじゃないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

町長の答弁は前から聞いているんです。ですから、4大事業の今度はせいになさったね。計画的に今の4大事業か分かりませんが、3つの事業は一気に4年ずつしとけば済んどったっちゃないかなって前から言いよるじゃなかですか。こういう時期に重なったからこうなってしまったのであつて。ですが、しかし、あとはやる気があるかどうかですたい。今から何しますと言うたっちゃ私は理解できないから、しないならしないとはっきり議会に説明してもらえんですか。

財政事情も厳しいのは分かっていますから、そんなら、この特定空家の人を入れてください、住宅に。そしたら空家の住宅に入る人が少ないと、今、町長言われたから、そしたら課長、今、申込状況はどうですか、希望者はないわけですか、教えてください。

議 長（淡田 邦夫 君）

建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

今の住宅の申込状況は、1倍は超えております。申込みがないということはございません。以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

ですから、申込みあるわけですから、改善して、その特定空家の52戸を建替えしないと、特定空家なくて困った人を、安くても結構ですから、住宅に入るような措置をしてください。収入が入っていないわけですから。将来的に建て替えるからということではずっと入れてきていないでしょ。そうでしょう、課長。そういう理由で私たちは捉えていますから。困った人に住宅を提供してください。どうです。

議 長（淡田 邦夫 君）

建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

さっき途中まで言いましたけれども、4団地の政策空家については政策空家ということで、今は募集を行っておりません。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

要は、よって、入れるかどうか、入れてくれというような。しばらく休憩します。

（11時27分 休憩）

（11時38分 再開）

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。
建設課長。

建設課長（山村 輝明 君）

大変時間をとって申し訳ありません。政策空家であります4団地につきましては、耐用年数が過ぎて老朽度がひどいということで政策空家になっておりまして、そこを補修して再度そこに入居させるには補修費も高くつくということで、今のところは考えておりません。

なお、建替計画につきましては、先ほど御説明させていただきましたように、令和3年度から12年度に取り組むことを目的としておりますので、すみませんけど、令和6年度におきましては予算計上をしておりませんが、その中で取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

同じことを何回言っても、実際、事務的に国の申請とかどこまでできているのかということ言いたいとですね、全然見えない。ですから、しないとなら空家を入れなさいと、全体でね。全部、特定空家を除く入居率とか収入とかを上げているけど、全体入ったときに何%の収納率があるとかがはっきり見えませんですね。そしたら、予算はないけど、そしたら今年度にそういう準備の計画だけ是可以するという認識しておけばいいんですか。ちょっとそこをお尋ねしておきます、計画を。入居者の説明会、いろいろあるとですよ。意向調査、入居者が変わってないけんよかかも分かりませんが、具体的に今年度にどこまで進むのかということ、ちょっと教えてください。

議 長（淡田 邦夫 君）

しばらく休憩します。

(11時41分 休憩)

(11時46分 再開)

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。
事業理事。

事業理事（今道 晋次 君）

大変申し訳ございません。今年度含めてどのように進めていくかということでの御質問でございますけれども、公営住宅の長寿命化計画の中で、この組立てをする際に、4大事業に係る財政への影響をどのように判断するかというのをございまして、牧崎団地、図池団地、里山団地、里山第2団地がございますけれども、令和9年度から事業を実施するという計画に今のところなっております。

議員御承知のとおり、4大事業、まだ3大事業が進んでいるところではございますけれども、財政への影響というところを、まだしっかりと精査をした上での取組になってこようかと思っておりますので、令和6年度というよりも、令和7年度、8年度、そういったところでの実際に取り組めるかどうかというところの精査をして、予定どおりにいくとすれば、令和9年度からの事業というふうになろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

4問目ですけれども、4問目まで認めます。
9番。

9 番（須藤 敏規 君）

ですから、実施時期はするかしないかは、財政状況とおっしゃいましたから、まだ町長は時代のすう勢で変わってきているとおっしゃるから。しかし、準備はしとかんばじゃないですか。大まかな計画とか、どういう方向で言われた、里山は町長は取り壊すと言われた、果たしていいのか。私たちは内容が分かりませんから、計画にせつかく重要な案件として総合計画にもいろいろ上げてあるから言いよるんです。立派な計画がいろいろありますよ、たくさん。それで準備はできるのかということ。ですから、あと担当委員会によく調査してもらって、できれば12月までの方向性だけは示していただきたいと私は思うとるもんですから。

以上です。意見ですけど、お願いします。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。これで、110ページ労働費から141ページの消防費までの質疑を終わります。

次に、141ページ教育費から186ページの予備費までの質疑を行います。

質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。これで141ページ教育費から186ページ予備費までの質疑を終わります。最後に、歳入歳出全般の総括の質疑を行います。

6番。

6 番（阿部 豊 君）

財政的な部分ということで、財政が非常に担当のほうに苦慮して当初予算編成に当たられたなという部分は、今回の勉強会で多分に理解するものでございます。4年度決算で実質収支黒字ということで、財政健全化に関する法律の各指標は良好な状況であるが、財政構造の弾力性を示す経常収支比率については、前年度から9.9ポイント増の90.2%ということで、経常的経費は容易に削減することが困難で、数値が高いほど自由に使用できる一般財源が少ないという状況に本町があると。

そう感じるところの原因として、今回の勉強会で私が感じたのが、物件費が13.1%増、人件費が8.3%増、補助費も5.1%増、公債費は例年並みということでございますけど、利子については金利上昇で増というような感じであります。5年度に投資的事業のピークということで、財政措置等も考えて計画が練られておりますけれども、令和6年度の状況を見ますと、投資的経費は削減されているわけですね。そういった状況の下、財政調整基金の取崩額の増、減債基金の取崩額の増、下水道整備基金については、ほぼほぼ取崩して、基金の残高については、ほぼなくなったと言っても過言でない状況に本年度なっております。

そういった状況の中で、まず物件費については、原因として考えられているのが、電算経費、新庁舎移転に伴う電子計算システムの整備ということで、1億3,300万円ほど増えておりますが、今回移転に伴う分で増えていると。じゃあ次年度からどれだけ抑制されるのかということについては、見通しをまずは伺っておきたいと。

それとあわせて、もう1点人件費について。会計年度任用職員の勤勉手当等が増えるということで、人件費も膨らんでおります。でありながら、現状の人数的な分はそう抑制されていないのではないかと。会計年度任用職員さんの職が改善されたということは非常にいいことではございますが、では、職員の定数というところで、ゼロベースで見直すべきではなかったのかと。正職員で賄えるべきは正職員で賄うというのが、元来、会計年度任用職員が、制度が進むときの根本的な指針であったというふうに認識しております。

そういった状況で、いわゆる今まで非正規というような感じで臨時的雇用という方々が、会計年度任用制度に変わったというときに、なんらそこら辺の検討がなかなか進んでいないという状況で人数も横並びでいっているのではないかと。全庁的な協議がどのようになされたのかというのを伺いたい。

あと別途、これは財政的見地とはちょっとあれなんですけど、住民へのデジタル的なサービ

ス、いわゆる新たな、教育委員会でいえば、返還不要の奨学金の拡充とか、これまでやってこられましたよね。そういったのをホームページで検索してもヒットしないんですよ。ほかにも新たな補助事業なんか、対住民の皆さんに対していろいろな補助制度を拡充したけど、それがはっきりとホームページで住民の方々が見たときにヒットするような状況にはなっていないと感じているんですけど、そういった改善は図るようになされているのかは、この総括のところを確認したいと思っておりましてので、追加して質疑をさせていただきます。

とりあえず、以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

2点ですね。

総務課長。

総務課長（落合 健治 君）

今、御質問がありました電子計算費のランニングコストについてお答えいたします。

令和7年度以降の電子計算費のランニングコストですが、令和5年度との比較になりますが、令和5年度がリース料が、再リースをしておる物品がかなりございまして、ちょっと単純比較はできない状況ではございますけども、パソコン等の機器の価格の高騰等もございまして、令和5年度と比較すると3,500万円ほどの増額になる見込みとなっております。

それから、人件費、会計年度任用職員の人件費でございまして、人件費の削減に向けて、予算計上前に両理事、税財政課長と私で各課ヒアリングを行いましたが、十分な削減ができていない状況でございます。令和6年度中に再度研究いたしまして、人件費削減に取り組んでまいりたいと考えております。

それから、DX関係の電子申請の件ですが、今、庁内で会議を立ち上げまして、どのようなものに取り組むことができるかを検討している状況でございますので、令和6年度中に研究を重ねて取り組むものを決定していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

6番。

6 番（阿部 豊 君）

会計年度任用職員さんを単純に減らせというようなことを質疑しているわけではございません。結局、正職員で賄うべきは正職員、まあ、今現在足りないという、正職員を含めたところの職員定数の抜本的な見直しをすべきではないかということをお願いしている次第です。正職員は定年退職までいるということでその支出が上がるということについては、やはりそれは住民の財産になるというふうに私は認識しております。いかんせんスポット的な業務で、これまで会計年度任用職員さんということに、補助的業務を行っていただいていたわけですが、これも、これが会計年度任用職員さんということで、通常一般業務のほうもやってもらうというような形になっていくわけですね。もうはっきり言えば、職員を任用しているわけですね。それがなかなか職員任用について、町長も――

議 長（淡田 邦夫 君）

ちょっとすみません。間もなく12時になりますけれども、令和6年度一般会計が終了するまで会議を続けさせていただきます。

6番。

6 番（阿部 豊 君）

なかなか職員定数を増するという部分は、町長も前向きではなかったんですけど、会計年度任用職員さんはどんどん増えていったわけですね。これは職員任用と変わらんわけですよ。だから、恒久的におっていただく正職員さんの人数を抜本的に見直すべきではないかという意味で申し上げておりますので、町長のそこら辺の見解はお伺いしておきたい。原課から容易にその任用の伺いが足りないからということまで上がってきて、決裁をして増えているんじゃないですかって言いたいですよ。これは全ての定数管理に関係することですよ。もう会計年度任用職員制度が始まっているわけですから。だから、これまでの認識を変えて定数という部分は見直すべきではないかということで、町長のほうにその点はお伺いしたい。

あと、電子計算費は若干は上がるけども、当初6年度のやつより抑制はされていくということで説明がありましたんで分かりました。

なぜ今度、財政的な部分で言っているかと言ったら、投資的事業のやつで、財源措置はなされとって、投資的事業は減になっているのに、財政調整基金の取崩しが増え、減債基金の取崩しも増え、だから来年度の暫定予算を組めないんじゃないかなというふうな、補助的継続事業の予算は暫定予算のときは組まれると思うんですけど、町長が新たになるのか、継続してなされるのか、それは分かりませんが、7年度予算がもう組めないような、財政的には逼迫してくるんじゃないかというふうなことを危惧しておりますので質疑をしている次第です。

下水道基金については、毎年取崩しをした分、決算のときに剰余金が出てその分を基金に積立てをして、翌年度の繰出しの財源措置としてしてきたわけですけども、はっきり言えばそれがもう今度枯渇していくと。であれば、今度は下水道事業については、使用料で賄う企業会計ですから、もう住民負担が影響する使用料に直結するわけですよ。だから一般会計が逼迫すれば逼迫するほど、厳しい状況になるわけですね。住民負担が増えると。それが差し迫ってすぐ来るような状況で、実は足りないんで使用料を上げますよと急に言われても困るもので、そこら辺の財政計画について伺いたいということで質疑をしております。

何を言わんとするかとしたら、予算全体が膨らみすぎていないかと。会議録にしても然りですよ。要求があった分がどんどん膨らんで、業務の検討もなく予算化されて、財政が逼迫してきていないかと。財政のほう書かれている無駄の排除による歳出削減に取り組むということが、真摯に取り組まれているのではないかとということで質疑をしておりますので、そういった観点で答弁をお願いしたい。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

やはり対前年度比で4,000万円ほど増加しているということで思っています。ただ一つの要因としまして、先ほど阿部議員がおっしゃったように、人件費が上げられておまして、やはり会計年度任用職員の人件費というのは、法改正になりまして、これが6,400万円程度の増額だということ。それから、職員の人件費で1,800万円ぐらい増えているわけですね。これで、任用職員と正規職員を合わせれば8,200万円程度が増えているということで、やはりこの人件費の3分の1が会計年度任用職員ということで増えている。ただ、正規職員が少ないということも私はないと思っています。今、条例上では、あとから多分人数は報告があると思います、そんなに変わらないと思いますし、それから、再任用職員というの、定年延長を含めた職員全体でどうなるのかということも考えなければならぬと。それで、やはり職員全体で、先ほど阿部議員が申されましたように、適正に配置をしているのかというのは、やはりもう少し副町長以下で、皆さんで話し合っ、そこら辺をはっきりしていただきたいとは思っています。ただ、

定員数といいますか、全体的に私は十分足りているのではないかと考えていますので、そこでやはり再任用、会計年度任用職員についても十分な見直しというのはやっていかなければ、これ以上人件費が増えるというのはなかなか厳しいのではないかと、私は思っているところがございます。

それから、新たに増えたというのが扶助費とか補助費がやはり増えていると。扶助費は特に増えているのではないかと考えています。こういうことで会計を圧迫しているのではないかと考えていますし、この扶助費が15%程度は増えていますので、これはもう年々、やはり高齢化になれば増えていくということで、国の補助額がない単独の扶助費というのは、やはり見直しもしなければならぬのではないかとということも考えているところがございます。

それからもう一つは、やはり阿部議員がおっしゃったように物件費ですね。物件費が伸びているというのは、これはやはり新庁舎の配置替えて、システムの機器が上がっているということで、これが1億4,000万円程度上がっているということで、やはり物件費というのは、我々もいつも予算要求のときに、原則、前年度以下で抑えてくれということをお話しているわけですが、ここがなかなか難しかったということで、やはり機器の更改で大幅に上がっているということをお話しましたようにそういうところがございます。

どちらにしましても、やはりそういうことを考えれば、なかなか伸びていると。来年度の予算を組まれるのかということもあります。財政調整基金も13億円程度になるのではないかとということも予想していますが、やはりこれがうちの類似団体を考えれば、類似団体よりちょっと平均的に下にいくんじゃないかということもあるわけですが、決算を見なければどうか分からないわけですが、そういう方向性に行くので、やはり十分皆さん方と話し合いをしながら、税財政課長のほうにも話をしたんですけど、今の財政状況を職員の皆さんですか、課長の皆さん方にもどういう財政状況だというのが理解されているのかということも、私もよく分からないので、そこら辺も税財政課長を中心に勉強会を開いて、今後どうするのかということも、どうしたらいいのかということも、よく話し合いをしていただくということで、今のところ話しているところがございますので、詳しいところにつきましては、税財政課長及び担当課長から説明させますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）

税財政課長。

税財政課長（藤永 大治 君）

今、町長が申しましたように、令和5年度の決算が終わった段階で、各課にこういう財政状況が厳しいというところをお話をしているというふうな今担当課では考えております。その際には、全ての事務事業においてゼロベースでの検討を、予算編成方針には書いてはおるんですけども、今一度全ての事務事業について見直しを図っていきたいというふうな考えております。それは、物件費とかそういうところも含めて、全体、人件費も含めての話になります。人件費についても各課ヒアリング、総務課長も含めた理事も含めた中でのヒアリングをしていきながら、全て見直しを図っていきたいというふうな考えております。

以上です。

議 長（淡田 邦夫 君）

6番。

6 番（阿部 豊 君）

税財政課長の話聞いて少しは安堵したんですけども、危機的状況を職員全体で共有して

改善をしていくと。要る経費は要るんですよ、当然。ただ、改善をしていくというようなものを、皆が同じ方向を向いて舵を切らないとなかなか進まないと思いますので、6年度予算の執行に際して、さらなる事務執行においてはゼロベースで再度検討するということを、税財政課長から答弁がありましたので、再度検証をし、特別職のほうに報告をしながら鋭意進めていただければというふうに思います。

あまりにもこれまで決算をしたときに剰余金が多く出過ぎるというのも、じゃあ当初予算は何だったのかというふうになりますので、来年度に向けたためにも、今年度は本当に皆さんで汗をかいて事務執行に進めていただければというふうに意見を申し上げて、質疑を終わりたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。

9番。

9 番（須藤 敏規 君）

財政については、今、6番議員が言われたのがそうだろうと思います。私も昨年9月に総務厚生委員会のほうにいただいた、今後、中期の財政見通しと比較しまして、やはり見通しより5億4,800万円ほど今回の補正が上がっているということでずっと調べてみました。それで、4年度の当初予算とその決算額について比較をしてみましたら、既に当初予算と比較して、歳入については1億9,000万円足らなかったという結果が、私のまとめた分では出ております。歳出については、4年度の当初予算が82億1,800万円、それについて決算額は66億9,600万円ですかね、それで1億5,000万円余っているという結果が出ているものですから。事業系とかいろいろ福祉関係は補助金の関係で増減しますが、当初予算に比べたら余ったような、やはりこれから見ますと、過大な当初予算を計上しとるんじゃないかなという疑念が持たれます。

先ほど6番議員が言っていたとおり、よく精査をして当初予算を組んでいただきたいということで、あと、やはり町長がいつも言っています持続可能な財政運営を目指すとおっしゃっておりますから、やはり今からいけば令和9年度の予算は組めないんじゃないかと私も思っているものですから、そういうことで、やはり将来負担と地方債の状況とか、それから受益者負担の在り方とか、そういうのを検討をずっとしてもらって、今年度中に行財政改革の推進会議でもして、委員会に報告していただきたい。そのように考えているわけですが、そういうお考えはないかどうかお尋ねします。

議 長（淡田 邦夫 君）

町長。

町 長（古庄 剛 君）

やはり今後、須藤議員がおっしゃったように、財源が不足するという予測はされるわけでございます。どちらにしても全体的にどうするのかというのは、税財政課を中心に話し合わなければならぬわけでございますけど、やはり財源不足が出てくるという可能性があるわけでございますけど、基金が今あるわけですね、その基金もやはり有効活用もやっていかなければならない。基金の再編とか整理も必要になってくるのではないかと考えておまして、やはり具体的にはどうするのかというのは、関係課と話し合いながらやっていかなければならないと思っていますので、財政の健全化に向けた会議というのも我々もやっていかなければならないと思っていますので、内部で検討した結果については、また、委員会等などに報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
9番。

9 番（須藤 敏規 君）

ですから、行財政改革の推進会議でも結構ですけど作っていただいて、福祉分野はどうか、教育分野はどうか、事業系はどうか、4大事業とか3大事業、町長おっしゃいますから、まあ100大事業でも作って、各課は見つめ直して、本当に過剰なサービスをしていないのか、特定の分野に補助金を出していないのかどうか、まずは補助金を見直しすれば出てくるはずですよ。税財政課長がさっきおっしゃったように、全体的に見直すとおっしゃいましたから、そういう分野からも一つ一つの事業を見直していただきたいと思いますので、ぜひ庁舎内で4役会って言いますかね、調整会議って言いますかね、課長会って言いますかね、その中で煮詰めて、各担当委員会のほうに随時調査をしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
意見でいいですか。
9番。

9 番（須藤 敏規 君）
するかどうかだけ聞いて。

議 長（淡田 邦夫 君）
するかどうかを。
町長。

町 長（古庄 剛 君）
これについては、十分内部協議をいたしまして、調査をした場合は報告をさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかに質疑ございませんでしょうか。
4番。

4 番（永田 勝美 君）

あまり大局的な話ではないのですが、歳入の中で、町民が負担する税目の中で非常に大きい割合を占めている固定資産税なんですけども、今回、固定資産税が評価替え等があつて伸びる計画だと、1.3%かな、伸ばすという計画にしているということなんですけど、その中で、一つは固定資産税がかかる対象の世帯というのはどれぐらいあるのかということと、それから、もう一つは、固定資産税の中に占める、いわゆる持ち家分って言いますか、いわゆる新規住宅建設等の寄与分というのがどれぐらいあるのか。新規住宅については、若干伸びを期待できる面もあるのではないかとと思うんですが、そういった意味では、政策的な反映も含めて考えていかざるを得ないというふうに思うので、そういった点での、いわゆる持ち家分の寄与割合というのが分かればお答えいただきたい。

議 長（淡田 邦夫 君）
税財政課長。

税財政課長（藤永 大治 君）

固定資産税の対象世帯というのは持ち合わせておりませんが、まず、持ち家と言いますか、1年間にどれだけの新築がされているかというのをちょっと話させていただきますけれども、令和5年中におきましては、専用住宅、木造、非木造合わせて45戸が新築をされております。そしてアパートが1戸建設をされております。これについては、専用住宅のほうは過去平均40から50世帯で推移をしていると、ただ、アパートについては、今年度は、5年中は少なかったという状況ですので、ちょっと対象世帯が何世帯分かというのは持ち合わせておりませんので、よろしく願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）
4番。

4 番（永田 勝美 君）

いわゆる固定資産税がかかる世帯数というのは分からないのですか。税財政課ではその世帯数というのは分からないということなんですか。

議 長（淡田 邦夫 君）
税財政課長。

税財政課長（藤永 大治 君）

納税義務者というのは、担当のほうでは分かりますけれども、現在その納税義務者の数というのは持ち合わせておりません。よろしく願いします。

4 番（永田 勝美 君）

あとでも結構なので、数字については分かれば教えてください。

議 長（淡田 邦夫 君）
ほかに質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。これで質疑を終わります。
これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。
これから採決を行います。議案第30号 令和6年度佐々町一般会計予算は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。
しばらく休憩します。

(12時19分 休憩)

(13時18分 再開)

— 日程第3 議案第31号 令和6年度 佐々町国民健康保険特別会計予算 —

議長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3、議案第31号 令和6年度佐々町国民健康保険特別会計予算を議題とします。
執行の説明を求めます。

保険環境課長。

保険環境課長（宮原 良之 君）

それでは、議案第31号の1ページをお願いいたします。

第1表歳入歳出予算。

歳入。1款国民健康保険税2億1,304万5,000円、1項国民健康保険税、同額です。

2款使用料及び手数料15万円、1項手数料、同額です。

3款国庫支出金158万4,000円、1項国庫補助金、同額です。

4款県支出金10億1,747万1,000円、1項県補助金、同額です。

5款財産収入2,000円、1項財産運用収入、同額です。

6款繰入金1億4,228万9,000円、1項他会計繰入金、同額です。

7款繰越金1,000円、1項繰越金、同額です。

8款諸収入10万2,000円、1項延滞金、加算金及び過料1,000円、2項預金利子1,000円、3項雑入10万円。

歳入合計、13億7,464万4,000円。

次のページ、2ページをお願いいたします。

歳出。1款総務費1,321万5,000円、1項総務管理費974万円、2項徴税費326万8,000円、3項運営協議会費20万7,000円。

2款保険給付費9億7,257万9,000円、1項療養諸費8億4,627万4,000円、2項高額療養費1億1,819万9,000円、3項移送費2,000円、4項出産育児諸費750万4,000円、5項葬祭諸費60万円。

3款国民健康保険事業費納付金3億6,022万8,000円、1項医療給付費分2億4,926万2,000円、2項後期高齢者支援金等分8,521万7,000円、3項介護納付金分2,574万9,000円。

4款保健事業費2,567万8,000円、1項保健事業費、同額です。

5款基金積立金3,000円、1項基金積立金、同額です。

6款公債費3万4,000円、1項公債費、同額です。

7款諸支出金102万4,000円、1項償還金及び還付加算金、同額です。

8款予備費188万3,000円、1項予備費、同額です。

歳出合計、13億7,464万4,000円。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

議長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。質疑ございませんでしょうか。

6番。

6 番（阿部 豊 君）

令和6年度佐々町国民健康保険特別会計の中において、今回の勉強会で危惧する点がありましたので質疑を行います。

まず、今回、基金取崩しで5,500万円ということで、厳しい財政運営状況に陥っているという当初予算の編成になっております。納付金につきましては、医療分については前年並みと。介護納付金についても同様に前年並みと。後期高齢者支援分が3,000万円近く上がったということで、納付金の増額という状況に陥っておる状況でございます。

何をお伺いしたいかという、本町の国民健康保険税率がいつから据え置かれているのか。県内の保険料率的に、本町の国民健康保険税率についてはどのぐらいに位置しているのかを確認したい。

議 長（淡田 邦夫 君）

しばらく休憩します。

（13時24分 休憩）

（13時24分 再開）

議 長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

保険環境課長。

保険環境課長（宮原 良之 君）

お時間いただきまして申し訳ございません。

議員も御承知のとおり、国民健康保険のほうが都道府県化になりまして、平成30年度に固定資産税割のほうがなくなるという改定が最新の改定でございまして、それ以外の税率については、もっと昔に遡りまして、平成22年から変わっていない税率となっております。

県内の保険税率の状況についてでございますが、今、手元に正確な順位を示した資料はございませんが、県内21市町ある中の税率については、本町は下のほうから数えたほうが早いというような順位にあったと記憶しております。

以上でございます。

議 長（淡田 邦夫 君）

6 番。

6 番（阿部 豊 君）

随分長いあいだ、保険税については財政運営努力もあって、健康診断等の重症化する前の対応ということにも心がけて、被保険者の医療負担分というのが抑えられて、なんとか保険税を上げなくていい状態の財政状況でこれまで推移してきたと。固定資産割をなくすという改正については、いわゆる保険税の減額になっておりますよね。だから、減額改定が先般行われたという状況で現在まで運営し、基金の状況も1億3,485万2,000円という5年度末の現在高見込みであると。これが6年度に5,500万円を取崩すと。6年度末の現在高見込みが7,985万5,000円ということで、厳しい財政運営を強いられてくるなというふうに勉強会で確認させていただきました。

保険者として、今後の税率の考えというのを、今回伺いたいなと思って質疑をしておる次第です。というのも、財政運営が厳しくなったということで、大きな保険料率の税率の改正を行

われると、被保険者も負担が過大となって厳しい状況も推察されますので、計画的な財政運営をするために、どのような考えをお持ちなのかというのを伺いたい。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

今の阿部議員の御質問でございます。皆さん御存じのとおり、この健康保険税の基金が1億3,400万円ぐらい今あるってということで、5,500万円を今年繰入れを行ったわけでございます。

やはり国民健康保険の事業会計の納付金が増額しているということで、なかなか厳しい財政を行わないと、と思っています。しかしながら、今、物価高でもあるし、なかなか住民の方も厳しい家計があるということで我々も認識をしています。なるべく上げないような方法というのはやっていきたいと思うんですけど、まだいつ上げるというのはまだはっきりしていないわけでございますけど、町としましても、その分上げる計画になっていかなければならないんじゃないかと。そのときにはやはり、皆さん方に御示ししながらやっていかなければならないと思っていますので、どうぞよろしく御願い申し上げたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）
6番。

6 番（阿部 豊 君）

まあ単純に今年度の予算編成、6年度の予算編成と基金の状況を鑑みると、容易に想定できる保険料率の改定が間近に迫っていると。納付金のほうが、後期高齢者支援分が減るような方向にはいかないと思うんですね。医療費も抑制されて、なんとかスライドして、横すべりな状況で抑制はされていると。介護納付金についても横すべりであると。後期高齢者だけはもうやはり皆さん年齢は重ねていくので、支援分は増えることはあっても減ることはないという状況を考えると、納付金は増えていくんだと。早期に財政計画を練って、上げないことがありがたいんですけど、これをどんどん我慢していくと、早晩、一気に税改正ということは、被保険者が望むものではないと思いますので、そここのところは、今年度でも所管委員会のほうに、そういった計画を示していただいて、なるべく段階的に改正を、一気に負担にならないような方向で示していただければと思いますので、所管委員会のほうに早めの計画を示していただければという意見を申し上げて、質疑を終わりたいと思います。

議 長（淡田 邦夫 君）
4番。

4 番（永田 勝美 君）

確認的な質疑ですが、予算書の4ページに明細表がありますけれども、これで見ると一目瞭然ですが、保険給付費が7,800万円少なめの計上ということになっているんですけども、納付金が3,117万5,000円増えると。ただ今のやりとりもありましたが、やはり激変緩和措置がなくなったことが、これのもっとも大きな要因ではないかというふうに思うんですが、激変緩和措置そのものは、要するに、まさに保険料に反映するようなことを避けるために、この激減緩和措置というのは設けられたんですが、現実には国民健康保険財政そのものはどんどん厳しくなっているという状況を見ると、やはりその激変緩和措置を延長してもらおうと。さらに言えば、国民健康保険に対する国の負担率をやっぱり高めてもらおうと。かつては45%が国の負担だ

ったのが、今はもう3割切っていますから、そういった状況を見ると、やはりそういった町村会で要望が毎年上げられていますけれども、ぜひ、やっぱりそうした取組もあわせて必要なのではないかということをお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

さらにもう1点、特定健診のことで、ちょっと細かい資料ですが、聞き漏らしておったんですけれども、特定健診の資料、保険環境課から頂いた資料の5ページ、特定健診・保健指導についてなんですけど、令和5年度が保健指導実施者数がゼロになっているんですけども、これについてはどういう事情なのか。特定健診の保健指導対象者というのが78名あって、指導実施者はゼロというのはどういうことかということについてお答えいただきたいと思います。2点です。

議 長（淡田 邦夫 君）
町長。

町 長（古庄 剛 君）

激減緩和措置の終了ということで、確かにこれも佐々町の主な変動要因ということで、我々も思っているところでございます。やはり我々も町村会も、市長会のほうも話をして国のほうにお願いをしているんですけど、なかなか難しいということでございまして、その点については、我々も継続して国のほうに要望を上げていきたいと思っておりますので、御理解をいただければと思っています。よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（淡田 邦夫 君）
多世代包括支援センター長。

多世代包括支援センター長（松尾 直美 君）

2問目の御質問について、令和5年度の保健指導実施率がゼロという記載になっておりますけども、こちらは、今現在、指導を継続して実施している途中でありまして、実績として数字が確定しておりませんので、また次年度においてお示しさせていただければと思います。

以上になります。

議 長（淡田 邦夫 君）
4番。

4 番（永田 勝美 君）

保健指導については、じゃあ実績がゼロということではなくて、まだ未集計というふうに理解したらよろしいわけですね。それは分かりました。

激減緩和の問題については、やっぱりいわゆる国民健康保険の県単位化というのに際して、結局、保険給付削減の努力をしてきた市町の取組が、結果的には、よそがつまらんということではないんですけれども、収支がより厳しい自治体の負担を、我々も平準して引き受けざるを得ないような状況になっているのではないかという思いが大変ありまして、そういった意味では、町にとってはマイナスになるのではないかということもずっと指摘してきたわけですね。ただ制度の持続性ということも理由にこれを続けてきたという経緯がありますので、そういった点も踏まえて我々が進めてきた特定健診などの、いわゆる給付削減の努力というのが、やはり自分に反映されるような、そういう激減緩和というか、対応というのをより強く求めていく必要があるというふうに思いますので、意見を述べておきたいと思ひます。

議長（淡田 邦夫 君）

ほかに質疑ございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。

これから採決を行います。議案第31号 令和6年度佐々町国民健康保険特別会計予算は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第4 議案第32号 令和6年度 佐々町介護保険特別会計予算 —

議長（淡田 邦夫 君）

日程第4、議案第32号 令和6年度佐々町介護保険特別会計予算を議題とします。

執行の説明を求めます。

住民福祉課長。

住民福祉課長（松本 典子 君）

議案第32号の1ページを御覧ください。

第1表歳入歳出予算（保険事業勘定）。

歳入。1款保険料2億7,042万円、1項介護保険料、同額です。

2款使用料及び手数料2万5,000円、1項手数料、同額です。

3款国庫支出金2億9,150万8,000円、1項国庫負担金2億2,649万6,000円、2項国庫補助金6,501万2,000円。

4款支払基金交付金3億4,691万2,000円、1項支払基金交付金、同額です。

5款県支出金1億9,353万4,000円、1項県負担金1億8,713万6,000円、2項県補助金639万8,000円。

6款繰入金2億4,302万2,000円、1項一般会計繰入金2億1,302万2,000円、2項基金繰入金3,000万円。

7款繰越金2,000円、1項繰越金、同額です。

8款諸収入33万3,000円、1項延滞金、加算金及び過料2,000円、2項預金利子1,000円、3項雑入33万円。

9款財産収入2,000円、1項財産運用収入、同額です。

歳入合計、13億4,575万8,000円。

次のページをお願いいたします。

歳出。1款総務費2,004万4,000円、1項総務管理費468万3,000円、2項徴収費105万1,000円、3項介護認定審査会費1,431万円。

2 款保険給付費12億7,271万7,000円、1 項介護サービス等諸費11億6,607万2,000円、2 項介護予防サービス等諸費2,013万8,000円、3 項その他諸費110万1,000円、4 項高額介護サービス等費3,459万2,000円、5 項高額医療合算介護サービス等費508万1,000円、6 項特定入所者介護サービス等費4,573万3,000円。

3 款財政安定化基金拠出費1,000円、1 項財政安定化基金拠出金、同額です。

4 款基金積立金3,000円、1 項基金積立金、同額です。

5 款地域支援事業費5,031万9,000円、1 項介護予防・生活支援サービス事業費862万8,000円、2 項一般介護予防事業費1,634万円、3 項包括的支援事業・任意事業費2,535万1,000円。

6 款公債費 8 万3,000円、1 項公債費、同額です。

7 款諸支出金25万1,000円、1 項償還金及び還付加算金、同額です。

8 款予備費234万円、1 項予備費、同額です。

歳出合計、13億4,575万8,000円。

次のページをお願いいたします。

第1表歳入歳出予算（サービス事業勘定）。

歳入。1 款サービス収入158万4,000円、1 項予防給付費収入、同額です。

2 款繰入金35万8,000円、1 項一般会計繰入金、同額です。

3 款繰越金1,000円、1 項繰越金、同額です。

歳入合計、194万3,000円。

歳出。1 款事業費191万3,000円、1 項包括的支援事業費、同額です。

2 款予備費 3 万円、1 項予備費、同額です。

歳出合計、194万3,000円。

以上です。よろしくをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから討論を行います。

4 番。

4 番（永田 勝美 君）

令和6年度佐々町介護保険特別会計予算に対して、反対討論を行います。

今、介護保険法の改悪が続けられ、保険料は当初の2倍、自己負担も2倍、利用制限が拡大し、介護内容が改悪される一方で、国民の負担だけが増えています。

根底には、社会保障を大きく切り崩してきた政府の政策にあります。国の負担割合は、この間全く増えていません。一方で、保険料は際限なく増えておりまして、当初3,000円を下回る2,911円だった保険料が、今は5,726円。ことしの予算では、6,000円を超える金額の引上げとなっています。20年以上経って、介護保険料は2倍以上に引き上がっています。その上、利用料についても、高額の方については3割負担が導入されるなど、非常に給付についても、あるいは保険料についても大幅な引き上げと。保険料は中間所得層といわれる年間720万円以上の方は、9,734円から1万4,767円と1.5倍の引上げということになります。

先日来、春闘で大企業のベースアップが報道されていますが、県内の中小企業の3割はベースアップができない状況です。佐々町は介護予防に本当に努力を重ねてまいりました。そうし

た努力や介護労働者の御苦勞に報いて、高齢者の介護予防と給付の充実を行うためには、予防給付を大幅に拡充するとともに、介護労働者の賃金引上げをはじめとする処遇改善が求められています。しかし、これらを介護保険の枠内で保険料引上げによって賄うことは現実的ではありません。求められることは、保険財源によらない給付を国の責任で行うことです。今回の予算は、介護保険の枠内で財源を全て賄うという枠組みで、不足分を保険料引上げで対応するというものにほかならないと思います。一方で、介護予防給付や介護保険給付は大きく制限され、介護保険から外され続けています。利用料の引上げも深刻です。介護保険は医療保険とは違い、利用する方は極めて限定的であり、全体の2割以下というものであります。まさに保険あって給付なし、負担だけが国民に押しつけられることは容認できません。

以上、反対討論といたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

ほかに。

2番。

2 番（川副 剛 君）

賛成討論いたします。

介護保険制度は、介護を社会全体で支えることを目的として創設された保険制度であり、本町としても、動脈硬化検診業務、認知症予防事業など、将来的な医療費や介護保険料の削減につながる事業を積極的に新規拡充しております。

保険料が高くなっていることは理解はできますが、本予算案は公正な制度維持としてやむなしと考え、賛成といたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから採決を行います。この採決は起立によって行います。議案第32号 令和6年度佐々町介護保険特別会計予算は、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

起立多数です。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第5 議案第33号 令和6年度 佐々町後期高齢者医療特別会計予算 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第5、議案第33号 令和6年度佐々町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

執行の説明を求めます。

保険環境課長。

保険環境課長（宮原 良之 君）

それでは、議案第33号、1ページをお願いいたします。

第1表歳入歳出予算。

歳入。1款後期高齢者医療保険料1億4,957万3,000円、1項後期高齢者医療保険料、同額です。

2款使用料及び手数料2万円、1項手数料、同額です。

3款繰入金5,619万3,000円、1項一般会計繰入金、同額です。

4 款繰越金1,000円、1 項繰越金、同額です。

5 款諸収入49万6,000円、1 項延滞金、加算金及び過料2,000円、2 項償還金及び還付加算金30万2,000円、3 項預金利子1,000円、4 項雑入19万1,000円。

歳入合計、2億628万3,000円。

次の2 ページをお願いいたします。

歳出。1 款総務費204万4,000円、1 項総務管理費151万4,000円、2 項徴収費53万円。

2 款後期高齢者医療広域連合納付金 2 億375万5,000円、1 項後期高齢者医療広域連合納付金、同額です。

3 款諸支出金30万2,000円、1 項償還金及び還付加算金、同額です。

4 款予備費18万2,000円、1 項予備費、同額です。

歳出合計、2億628万3,000円。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから討論を行います。

4 番。

4 番（永田 勝美 君）

令和6年度佐々町後期高齢者医療特別会計予算に対して反対討論を行います。

高齢者の生活に配慮しない際限のない保険料引上げが進められています。制度発足以来、私たちの生活は、実質賃金は低下を続け、年金は目減りが続いています。勤労者の実質賃金は80年代半ばの水準に低下していると言われていています。その上に、最近の物価高騰や消費税引上げにより、高齢者の生活は更に困窮を極めています。今回の予算では、保険料率を均等割で6%も引き上げ、夫婦で年間10万円を超える水準に引き上げています。低所得者を含めて一律の負担となる人頭課税というべき均等割は大幅に削減すべきと考えます。

所得割については14.2%の引き上げです。この間政府は、少子化対策と称して出産手当金を増加しました。このことは子育て世代にとっては一定の改善と言えますが、問題はその財源として出産育児支援金制度を導入し、後期高齢者保険に負担を押しつけています。今回の制度は、高齢者医療を支える保険としての後期高齢者保険制度の目的に反する改悪です。こうしたことが許されれば、際限のない負担増が続けられていくことになる懸念します。これらの保険料引上げには断固反対であり、今回の予算には同意できません。

一部負担金の引上げも深刻です。医療機関受診に当たって、一部負担金は多くの国民の反対を押し切って2倍化が強行されました。こうした現実を見れば、広域連合としての負担軽減策はとられてしかるべきですが、長崎県の場合は全く独自措置もとられていません。費用負担を、保険料引上げという形で高齢者に押しつける今回の予算は、負担だけが増えて受診機会を失う高齢者を続出させることが危惧されます。それは後期高齢者医療制度を破綻に導く対応と言わざるを得ません。予防を重視し、軽度な症状でも早期受診を促していくことは、医療保険財政の常道ではないでしょうか。そのためには、受診時の一部負担は引き上げないことが重要であり、低所得者が多い高齢者に保険料負担を押しつけることは許されないと考えています。

以上、反対討論です。

議 長（淡田 邦夫 君）
2番。

2 番（川副 剛 君）

賛成討論いたします。

高齢化が進む中、安心して医療を受けられるよう国民全体で支え合う制度であり、本町も様々な健康維持増進を図っております。今後も広域連合と情報の共有と円滑な連携をしながら、後期高齢者の病気や介護予防につながる保険事業、健康教室など充実を図っていただくよう求めます。

安定的な運営のため、適正に予算化されていると判断し、賛成といたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから採決を行います。この採決は起立によって行います。議案第33号 令和6年度佐々町後期高齢者医療特別会計予算は、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

起立多数です。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第6 議案第34号 令和6年度 佐々町国民健康保険診療所特別会計予算 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第6、議案第34号 令和6年度佐々町国民健康保険診療所特別会計予算を議題とします。執行の説明を求めます。
多世代包括支援センター長。

多世代包括支援センター長（松尾 直美 君）

それでは、議案第34号、1ページをお願いいたします。

第1表歳入歳出予算。

歳入。1款診療収入326万2,000円、1項外来収入、同額です。

2款使用料及び手数料16万2,000円、1項手数料、同額です。

3款財産収入1,000円、1項財産運用収入、同額です。

4款繰入金887万3,000円、1項他会計繰入金648万9,000円、2項基金繰入金238万4,000円。

5款繰越金1,000円、1項繰越金、同額です。

6款諸収入2,000円、1項雑入1,000円、2項預金利子収入1,000円。

歳入合計、1,230万1,000円。

続きまして、2ページをお願いいたします。

歳出。1款総務費1,130万3,000円、1項施設管理費、同額です。

2款医業費49万7,000円、1項医業費、同額です。

3款基金積立金1,000円、1項基金積立金、同額です。

4款予備費50万円、1項予備費、同額です。

歳出合計、1,230万1,000円。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。

これから、採決を行います。議案第34号 令和6年度佐々町国民健康保険診療所特別会計予算は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第7 議案第35号 令和6年度 佐々町水道事業会計予算 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第7、議案第35号 令和6年度佐々町水道事業会計予算を議題とします。

水道事業においては、7日の上程の際に朗読は終わっておりますので、質疑からお受けいたします。

水道事業において質疑はございませんでしょうか。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。

これから、採決を行います。議案第35号 令和6年度佐々町水道事業会計予算は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

— 日程第8 議案第36号 令和6年度 佐々町公共下水道事業会計予算 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第8、議案第36号 令和6年度佐々町公共下水道事業会計予算を議題とします。

公共下水道事業会計においても、7日の上程の際に朗読は終わっておりますので、質疑からお受けいたします。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから、討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。

これから採決を行います。議案第36号 令和6年度佐々町公共下水道事業会計予算は、原案のとおり可決することに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。

（13時57分 休憩）

（14時43分 再開）

— 日程第9 請願第2号 健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書 —

議長（淡田 邦夫 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第9、請願第2号 健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書を議題とします。

12月定例会で議会運営委員会に付託された、請願第2号 健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書について、委員長から委員会の報告をお願いいたします。

1番。

（議会運営委員長 登壇）

1番（平田 康範 君）

委員長の平田です。令和5年佐々町定例会第4回で付託されました請願第2号についての委員会の報告をいたします。

付託案件は、健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書です。

開催日時は、令和6年1月16日火曜日、午後1時30分より行っております。出席委員は全員です。請願書の紹介議員の発言を許可し、内容は次のとおりです。

マイナ保険証は、マイナンバーカードを持った方しか使えない。障がい者、認知症の方などについては、医療の機会が多いが、そのような方々はマイナンバーカードを取得することその

ものが非常に困難である。また、障がい者の方とかは顔写真が特定できない、背景が写ってはダメだとか、マイナンバーカードをつくるには限度があるなどの問題もあり、マイナンバーカードを作れない状況になる。一方で、医療にかかる機会が多いことから、資格証明書の発行となる。資格証明書は従来の保険証と何ら変わらない。したがって、従来の保険証を発行することに何も問題はないので、当面は継続する必要があると思われ、廃止をしないよう求めることには賛同できる。

委員よりの質疑は、まず、波佐見町、それから東彼杵町、小値賀町、新上五島町は提出されていない。インボイス制度導入の折にも委員会付託となり、審査の結果、消費税インボイス制度の延期を求める意見書を提出したが、インボイス制度は導入された。結局は、政府の成り行きに任せることしかできない、廃止を求めてもいかなものか、提出しないほうがよいと。

以上、質疑を終わり、討論に入りまして、賛成討論としては、請願の内容は保険証を廃止しないで従来の保険証を使えるという内容であり、状況として、そのような意見があることを証明することなので問題はないと思いますので賛成とするということです。

反対討論としては、先ほど質疑で意見を言わせていただいたとおりで反対とする。それから、あと1名が、マイナンバーカードはトラブルもあるが、ごく稀な事例であり、今後のデジタル社会の形成のステップとして、マイナ保険証は必要であり国の方針に準拠すべきである。

以上、3名の討論を終わり、挙手による採決の結果、健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書は、採択賛成者が挙手少数により議会運営委員会是不採択です。

以上、議会運営委員会の付託審査報告を終わります。

議 長（淡田 邦夫 君）

これから委員長報告に対する質疑を行います。

（「なし。」の声あり）

質疑もないようです。質疑を終わります。

これから討論を行います。

（「なし。」の声あり）

討論もないようです。討論を終わります。

これから採決を行います。請願第2号 健康保険証の廃止をしないよう求める意見書を政府に送付することを求める請願書については、委員長の報告は不採択です。委員長の報告どおり不採択とすることに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり不採択となりました。

— 日程第10 閉会中の委員会継続調査 —

議 長（淡田 邦夫 君）

日程第10、閉会中の委員会継続調査に入ります。

閉会中の委員会継続調査については、会議規則第75条の規定により、各委員長からお手元に

配付いたします案件について調査の申出がっております。

お諮りします。委員長の申出のとおり閉会中の委員会継続調査を行うことに異議ありませんか。

（「異議なし。」の声あり）

異議なしと認めます。よって、別紙、委員長の申出のとおり閉会中の委員会継続調査を行うことに決定いたしました。

— 閉会 —

議 長（淡田 邦夫 君）

以上で、令和6年3月本定例会に付された案件は全て終了いたしました。

閉会にあたり、町長の御挨拶をお受けいたします。

町長。

町 長（古庄 剛 君）

それでは、閉会にあたりまして一言御挨拶を申し上げます。

本定例会が3月5日に開会し、本日15日までの11日間の会期で開催されてまいりました。その間、提案を申しあげました補正予算、条例関係のほか、当初予算一般会計など7会計について11日から3日間の勉強会が行われ、31件の各議案に対して、それぞれ慎重に審議をいただきました。議員の皆様におかれましては、提案を申しあげました議案に対しまして、それぞれの御決定をいただき誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

今議会におきまして、議員各位からいただきました御意見、御指摘等々については、その対応に十分留意しながら、職員一丸となって予算執行に努めてまいりたいと考えております。

1月1日の石川県で最大震度7を観測しました能登半島地震に伴う津波、大規模な火災や土砂災害により甚大な被害を受けられました。本町といたしましては、先月25日から3月2日まで職員の1名を支援のために派遣しました。また、明日16日から23日まで職員1名を石川県の珠洲市へ派遣をいたす予定にしております。改めまして、災害でお亡くなりになりました方々に慎んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました全ての皆様に心からお見舞いを申し上げたいと思います。今後も、被災地の一日も早い復旧、復興に向けて、必要な支援を行いたいと思っております。

議員の皆様におかれましては、新年度にかけまして、公私ともに何かと御多忙の時期かとは存じますが、健康には十分留意をいただき、今後とも町政の発展のために御活躍していただきますようお願いを申し上げます。

本日、閉会にあたりまして、淡田議長をはじめ、各議員の皆様方の御協力に感謝を申し上げます。御挨拶に代えさせていただきます。長時間にわたり慎重審議をいただき、誠にありがとうございました。お疲れ様でございました。

議 長（淡田 邦夫 君）

私から一言お礼を申し上げます。令和6年3月定例会閉会にあたりまして一言御挨拶を申し上げます。

3月5日から15日までの11日間にわたり開催されました3月定例会は、条例、物品売買契約締結、令和5年度補正予算、令和6年度の予算が上程され、慎重審議の結果、全てが可決いたしました。

また、一般質問においては、5名の議員より様々な観点から提案があり、町政を正すなど活発な議論が行われ、誠に意義ある議会となりました。改めて感謝を申し上げます。

また、永田委員長におかれましては、3日間の令和6年度勉強会、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

新庁舎建設が始まり、外観の構造物が見え、今の庁舎よりも大きな構造物であると皆さんが思っておられると思います。令和6年度の10月完成に向けて、立派な庁舎を住民の皆様方が待ち望んでおられることと思います。

そして、議会においては、3月議会からタブレットの導入で新しい時代の議会となり、私どももその時代に乗り遅れないように努力が必要と痛感をいたしました。

また、今後の佐々町議会議員のなり手不足解消のために、議員報酬について審議会を依頼し、検討の結果、21年ぶりの引上げの答申をいただき、委員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

一方、審議会は議員に対して、より活発な活動や積極的な情報発信、収集に取り組んで欲しいとの要望をされ、議会といたしましても慎重に受け止め取り組んでいこうということでおっております。

令和6年度勉強会における説明は、実務者の説明とは理解しておりますが、新規事業の説明においては「暮らしいちばん！住むならさざ」そして「みんなが輝き、みんなで創るまち」が聞こえてこない説明がありました。議員の皆様方はどういうふうに感じられたことでしょうかと思っております。

また、まちなか町有地活用事業において、今までの議会において、議員より多くの一般質問があったにもかかわらず、民間業者との市場対話を行うとしていた調査研究は進んでおりません。町長もあと1年数か月の任期となっております。今後、佐々町発展は、町有地の有効活用も大きな大切な課題と思っておりますので、よろしく対応の方をお願いしたいと思っております。

執行、議会の皆様方におかれましては、健康に留意され、その持ち場においてお励みいただきたいと思っております。

3月定例会閉会にあたっての御挨拶といたします。本当にお疲れでございました。

以上で、令和6年3月第1回佐々町議会定例会を閉会いたします。

お疲れ様でした。

(14時56分 閉会)